

## ペットボトルキャップのリサイクルを「見える化」 ～リサイクル製品を八女市内小学校へ贈呈～

- 福岡県リサイクル総合研究センターは、(株)プラテクノマテリアル、九州工業大学、飯塚市、八女市と「ペットボトル用キャップを効率的にリサイクルするしくみづくり」をテーマとした共同研究プロジェクトに取り組んでいます。
- 八女市では従来、ペットボトルキャップについては燃えるごみとして焼却処分していましたが、平成23年から小学校や市役所等においてキャップの回収実験を開始しました。
- 今回八女市は、回収実験に協力して頂いている小学校の子どもたちへ、キャップを原料にしたリサイクル製品を贈呈します。これは、ペットボトルキャップを児童が身近に使う製品にリサイクルして贈呈することで、児童のリサイクルへの関心を高めることがねらいです。
- 贈呈するプランター、クリアホルダーは、本プロジェクトの一環でキャップリサイクルを「見える化」するため、キャップの色を活かした新しいリサイクル製品として、開発したものです。



小学校での回収風景

### ◆ 贈呈式の概要

日時：7月9日（月）13:20～（30分程度）

場所：八女市役所 205 会議室（八女市本町 647 番地）

贈呈者：八女市長

受領者：福島小学校の児童2～3名（八女市内全18小学校の代表）

同席者：八女市教育長、校長代表（福島小学校校長）、  
リサイクル総合研究センター長 他

贈呈品：キャップを再生したプランターおよびクリアホルダー

①プランター38個（各学校へ2個ずつ）

（3月までのキャップ回収量約345kgの売却価格に相当）

②クリアホルダー2,400枚（高学年児童に1枚ずつ）

（初回の贈呈を記念して、福岡県リサイクル総合研究センターより寄贈）

### ◆ 贈呈式次第

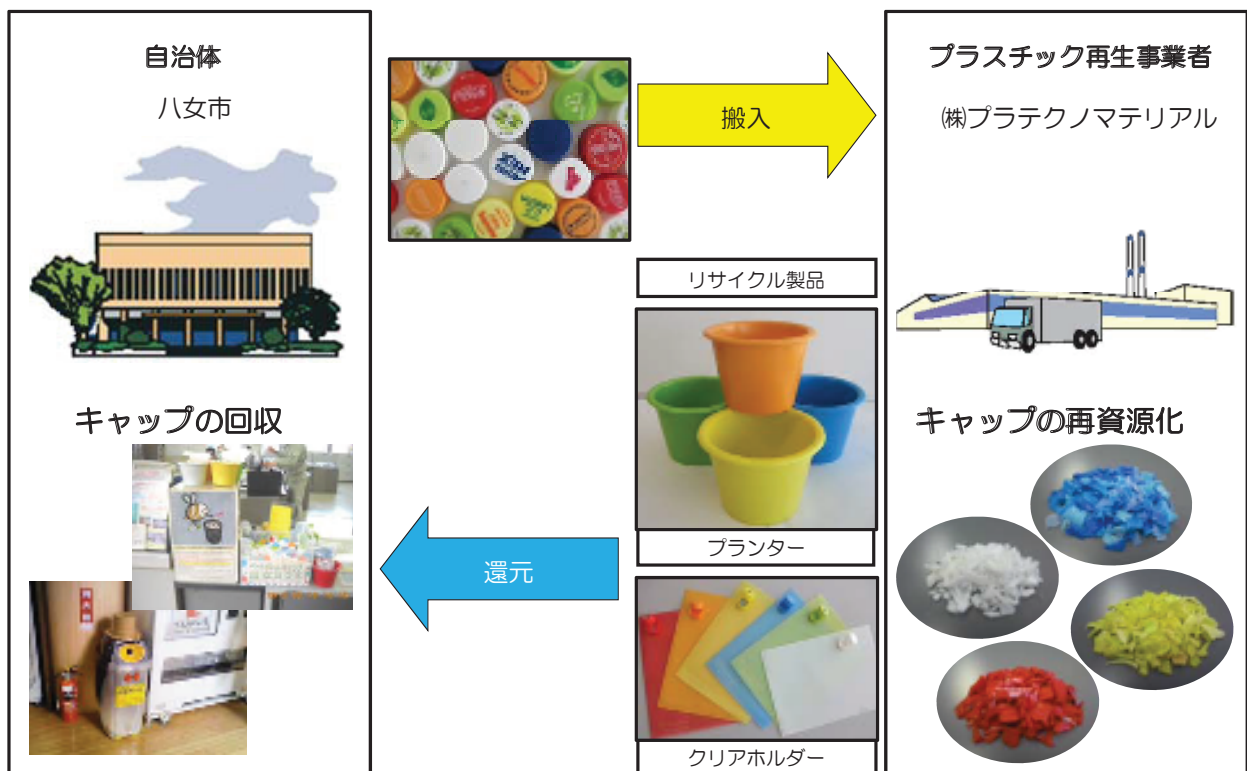
- 1 市長あいさつ
- 2 リサイクル総合研究センター長あいさつ
- 3 贈呈
- 4 児童代表お礼の言葉

### ◆ 八女市でのキャップ回収実験の概要

- ・ 八女市では従来、ペットボトルキャップについては燃えるごみとして焼却処分していましたが、平成 23 年から小学校や市役所等においてキャップの回収実験を開始しました。
- ・ 同年 11 月からは、旧八女市内の小学校に回収ボックスを設置し、集まる量を調査してきました。現在、回収ボックスを置いている場所は、市役所窓口（本庁および 5 支所）、旧八女市内小学校、公共施設（総合体育館、市民会館おりなす八女）、民間施設（べんがら村、道の駅たちばな、星野温泉池の山荘）の計 19 ヶ所です。
- ・ 平成 23 年 9 月から平成 24 年 3 月までの回収量は、約 345kg でした。

### ◆ プロジェクトにおけるリサイクルフロー

- ・ 本プロジェクトでは、回収されたキャップを学校、家庭、企業、官公庁等で幅広く使用される製品として再生することで、リサイクルを「見える化」することを目指しています。



- ※ 今回新たに開発したクリアホルダーについては、キャップの成分のままであると難しい薄いシート状への加工を、ポリプロピレン（PP）シート製造時に発生する PP シート切れ端を少量混ぜることで容易にし、原料すべてをリサイクル材料とした製品の開発に成功しました。

## ◆ 共同研究プロジェクトの概要

### ○ プロジェクト名称

「ペットボトルキャップリサイクルの事業化」共同研究プロジェクト

### ○ 研究期間

平成23～25年度（3年間）

### ○ 研究開発の目的

ペットボトルキャップリサイクルシステムを確立するため、「ペットボトル本体等との同時回収による効率的なキャップ回収システムの構築」と「色選別機の開発による処理効率の向上」を目指す。

### ○ 研究メンバー

- ・ (株)プラテクノマテリアル：回収キャップの再資源化
- ・ 九州工業大学：キャップ色選別装置の開発
- ・ 飯塚市：キャップ回収システムの検討  
市役所、公民館、量販店等、19カ所で回収実験を実施中
- ・ 八女市：キャップ回収システムの検討  
市役所、小学校、公共施設等、19カ所で回収実験を実施中

## 【関係者連絡先】

福岡県リサイクル総合研究センター研究開発課 担当：川原、久門

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1 Tel:093-695-3068 Fax：093-695-3066

八女市役所 社会環境課 担当：伊藤

〒834-8585 八女市本町6-4-7 Tel:0943-23-1462 Fax：0943-22-2186